

路上文芸総合雑誌

露宿

31号好評
発売中!

購読申し込み方法

郵便振替用紙(00160-6-190947
ろじゅく編集室)に定期購読もしくは
は継続購読とお書きになり、住所、
氏名を明記の上送金して下さい(発
行ごとに郵送します)。尚、郵便振替
の他、切手での受け付けもしており
ます。FAX、03-3373-9878 メール
rojuku@d9.dion.ne.jp にても注文承り
中。

物品、現金カンパいつもありがとうございます。

新宿連絡会2004年2月-2004年6月まで 会計報告

収入)		支出)	
炊出し部門寄付	27,000	炊出し事業費	250,532
活動部門寄付	5,000	医療活動事業費	7,197
越冬部門寄付	2,400	パトロール事業費	57,197
通信部門寄付	5,000	その他の活動費	44,169
その他寄付	11,23,860	福祉面会事業費	88,734
事業収益	191,800	自立支援事業費	19,000
前期繰越金	1,483,973	教宣活動事業費	189,419
		事務費	238,415
		文化娯楽事業費	127,428
		池袋関連事業費	45,500
		雑費	3,680
		次期繰越金	1,767,762
合計)	2,839,033	合計)	2,839,033

第11回新宿夏まつり

前夜祭 2004年8月14日(土) 夕方5時より中央公園ポケットパーク
—慰霊祭、カラオケ大会など—

本 祭 2004年8月15日(日) 昼より中央公園多目的運動場
(都庁第2庁舎裏、じゃぶじゃぶ池の隣の運動場)
—青空床屋、ゲーム、音楽演奏、炊き出し、盆踊りなど—

今年もやります。おっちゃん、おばちゃん踊ります。亡くなった仲間も踊ります。祭りはほのぼの楽しくなっちゃ。芸達者はいないかい。みんなで歌おう夏まつり。飛び入り演奏、飛び入り露天、企画持ち込み、大歓迎!! 本場の季節はTOKYO新宿路上まつりで楽しもう!

第11回新宿夏まつり実行委員会

〒160-0015 東京都新宿区大塚町3新大塚マンション304号スペースかぼす気付
TEL090-3818-3450



やり直しのできる社会を!

新宿連絡会 NEWS

VOL. 38
2004.7.15

新宿野宿労働者の生活・就労保障を求める連絡会議
〒111-0021 東京都台東区日本堤 1-25-11
山谷労働者福祉会館気付
TEL.090-3818-3450 FAX.03-3373-9878
<http://www.tokyohomeless.com>

2004 夏 Shinjuku ホームレス地域生活移行支援事業がスタート

笠井 和明

2004年6月21日、22日、東京都福祉局及び新宿区による「ホームレス地域生活移行支援事業」についての「説明会」が、都立戸山公園、区立中央公園で開催され、7月1日から生活サポート事業受託民間団体(中央公園-東京社会福祉士会、戸山公園-NPO新宿ホームレス支援機構)による巡回相談事業が開始されました。

「ホームレス地域生活移行支援事業」は、2002年8月に施行された「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法」に基づき東京都及び特別区が計画した、低家賃住宅施策を中心とした新たな自立支援事業です。自立支援センターを中心とした自立支援事業を法制定以前より実施してきた東京都が、その限界も含めて検討し直し、旧来の自立支援事業にそぐわない路上生活者、とりわけ生活基盤や就労基盤(日雇、雑業も含む)を持ち公園等でテント生活をしている人々を対象に、低額(月額約3000円)のアパートの提供(保証人なし、更新あり)を下支えにしながら生活拠点を移動させ、また、安定した就労による収入を公園の清掃などの臨時就労の提供や再就職支援等の就労支援事業等で支援をし、将来的な自力での地域生活への移行を支える事業として考案された新たな施策です。規模は当面2年間で2000戸の確保を予定し、そのため今年度は約6億円の予算を組むなど、今までにない本格的な事業として実施される予定です。

新宿連絡会としてはこの事業実施に当り、「排除の論理」を持ち込ませず、個々の選択権を保障して実施するよう、そして就労支援を重点課題として強化するよう昨年来から要望をし続け、本年2月、正式に事業実施が決定した後も、4月16日100名の都庁行動による「要望書」を提出、23日代表団による交渉(約150名が都庁行動に参加)、24日、落合地域センターにおける東京都担当係長、新宿区担当課長を交えての「公開シンポジウム」(新宿ホームレス支援機構との共催)を実施し、私たちの要望を伝え続け、そして5月1日の第10回新宿メーデー(350名結集)では「地域生活移行支援事業の早期実施を!」をスローガンに都庁に向けた大衆行動を展開しました。

そして、その成果もあり、「説明会」では「この事業に参加するかしないかは個々人の判断である」「参加しないからと強制排除をする事はない」「現在就いている仕事が途切れないようアパートは新宿区

内を優先的に探す」「宿泊所の利用は義務ではない」「住民票を置くか置かないかも自由である」等、心配されていた事項についての確認がなされ、「排除か排除でないか」の議論から、「実際に利用した場合のメリット、デメリット」と云う具体的な議論の段階に移っています。

現在行われている生活サポート団体による「巡回相談」は、「説明会」後の全体状況を把握するための調査的な相談であり、今月末までには、利用希望者数、臨時就労希望者数、移転希望先地域のおおまかな全体像が明らかになると思われます。今後は8月上旬から各公園で個別相談ブースが開設され、その場を使つての個別相談と、事業参加の最終確認と「決定」、そして8月下旬に第1便のアパート移行組が出ると思われます。アパート移行は年末まで計9回予定しており、新宿では約400名前後の移行が現時点では想定されています。

アパート移行に当って、新宿連絡会としては「やねの会」を互助会的に組織する方向で現在準備が進められています。困った時の拠り所は、やはり新宿連絡会であり、アパートへ移ったからと云って私たちの関係性が途絶える訳ではありません。「やねの会」では生活、就労問題についての正確な情報を提供し続けると同時に、今後想定される、生活保護申請問題、更新時の諸問題、また、一般就労後の差別雇用や不当解雇問題等への取組みを組織的に行う予定です。

今回の事業はアパートに移行したから終りになる事業ではありません。「目に見えない貧困問題」への取組みへの姿勢が問われる私たちにとっても大きな事業です。路上から都市部における底辺下層(貧民層)の諸問題へと活動エリアを拡大していく大きなチャンスでもあり、多くの新たな仲間との出会いがここから生まれてくるでしょう。

私たちは路上の現実を固定化させません。路上からあらゆるチャンスをつかみ、そこから這い上がれる環境を社会的に構築することこそが私たち連絡会の使命だと思っています。

排除策との攻防から、低家賃住宅政策と臨時就労支援政策をようやくにして実現させた連絡会10年のたたかいの地平から、次なるステップを目指し、私たちは更にたたかい続けます。

図解 ホームレス地域生活移行支援事業の流れ

東京都の発表した「ホームレス地域生活移行支援事業」のフローチャート図があまりにも雑だったため連絡会で新たにこしらえたものを毎週1500部配付するチラシに刷り込んで説明をしているところである。

この事業は、生活サポート民間団体、住宅確保民間団体、就労支援民間団体の3つの民間団体が行うサービス内容がからみあっている。3つの団体及び、事業実施主体の都区が相互に連携しあって初めて動き出す事業と言っても過言でないだろう。現在、そのために、事業参加希望者には臨時就労日数の希望、アパート移転場所の調査が行われており、それに基づき8月から具体的なアパート確保、そして臨時就労の振り分けの第2ステップが開始される。第2ステップでは宿泊所を利用となっているが、それは義務化されておらず、家族持ちや女性、仕事の都合や集団生活が嫌な者は



直接テント等から相談所に通い健康相談等が実施される。アパート確保は住宅確保団体が希望する地域内にいくつかの物件に当りを

つけ、最終的には本人が下見をし納得がいったら住宅確保団体と契約をすると云う段取りになっている。

この作業が8月下旬から年末にまでかけ、9回（一回20名から40名程度のまとまった規模）で予定されている。果たして希望通りの物件が見つかるのかと云うのがここでは最大の焦点となる。物件は4畳半から6畳程度の物になる予定である。什器備品は最低限度の物が支給される。

アパートへ移行しても、収入がない、低い者には就労支援がここから開始される。就労支援団体が運営する無料職業紹介所に登録をして東京都等が実施している緊急地域雇用対策基金事業の仕事を紹介してもらう事となる。これは1週間単位の仕事になる予定であるが、「数日だけの就労で構わない」「4週続けて就労したい」等、個々の事情に則して紹介するよう調整するのも就労支援団体の仕事となる。但し、基金事業就労の期間は半年間と国で定められているので臨時就労を利用できるのは半年間限定となる。そこで臨時雇用就労中に再就職支援セミナーや夜間休日等の技能講習などの職業訓練を実施し、臨時雇用後の再就職支援も同時に行うとされている。

そして、アパート移行後も生活上の困窮（病気等）の相談に乗れるよう生活サポート団体の相談体制も残し再路上化を予防する事となる。もちろん、病気の発生等で就労と収入の道が絶たれた場合は、当該区役所と連携しながら生活保護へ移行させる事となる。

2年後、この状態が変わらなければ更新となるが、収入が安定した状態であれば一般家賃での更新となり普通の暮しとなる。

いま「協同」を拓く2004全国集会INながののプレ企画に新宿の仲間が参加

山谷農場、新宿ホームレス支援機構、新宿連絡会が協力しあい、炊出しのお米を長年カンパして頂いている長野県千曲市の農家有志への「援農」「研修」活動を昨年夏から行っていますが、今年は長野で大きな全国規模のイベントがあるとの事でそれへ向けての「村おこし」に新宿の仲間も駆けつけ、都会と地方の交流を深めています。6月19日の「協同INながの」のプレ企画に新宿の仲間6名が参加し、準備活動から当日の田植えや交流会に参加してきました。同時に進めている農民工芸を教わりながらの雑業支援「ワラ馬作り」の講習会も順調に進み、日曜日の炊出し時に復習会も行い続けようやく技術もアップ、商品化の道も何となく見え始めました。手始めに新宿夏まつりでの販売を計画しております。



もちつもたれつの都会と農村との交流は、絵に描いたようにはいきませんが、着実に信頼関係を結びつつあります。

プレ企画の報告はこちらのホームページに掲載されています。
<http://kyodo-net.roukyou.gr.jp/2004/>

合わせて「協同INながの全国集会」への協力、ご支援宜しくお願い致します。



新たな取組みとして再就職支援セミナーが開始されています。

さる4月17日、新宿ホームレス支援機構、自立生活サポートセンターもやい、働きたいみんなのネットワークの三団体共催で「再就職支援セミナー」が新宿区の後援を受け飯田橋人材開発センターで実施されました。

新宿連絡会も福祉行動時にチラシを渡したりとこの新たな取組みに全面協力しています。

一般失業者を対象にした「再就職支援セミナー」は各地で開催されていますが、路上生活者や元路上生活者を対象にしたセミナーはあまりなく、民間ベースにおける新たな就労支援策として今後注目されることでしょう。

当日は自立支援センター利用予定者や生活保護受給者の5名が参加。働きたいみんなのネットワーク理事長の佐々木浩さんが「厳しい時代の就職活動」と題して今日の就職活動の困難さとそれを克服して行く心積もりをお話して頂き、続いてキャリアカウンセラーの野村成二先生から「会社が採用したくなる履歴書の書き方」の講義と「好印象を持たれる面接の練習」の実践講習が行われました。とりわけ面接練習は好評で、久しぶりに就職活動を目指す方々から「自信がいった」との声があがりました。

好評につき5月、6月と連続して実施し、既に就職を決めた仲間もいます。

